

授 業 科 目 名	福祉科指導法 I (Teaching Method on Social Welfare I)		
科 目 番 号	9458001	授 業 形 態	講義
単 位 数	3 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	応談
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	名川 勝、森地 徹		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	社会福祉教育のあり方について、教科「福祉」の教育指導の方法について学習し、高等学校における福祉教育の理論と実際について理解することができる。		
授 業 の 概 要	現代社会における人間の生活を社会関係の中で理解し共生社会を実現する視点を、歴史的、思想的、社会科学的な視点を基盤としながら、現代を生きる高校生／10 代の若者の意識動向を考え、福祉的な発想から環境を理解し、問題を抱えた現実を変えて行く方法論について当事者の視点から考える力とは何かについて講義や教材研究、フィールドワーク／体験・交流をとおして学んでみたい。		
授 業 計 画	<p>【福祉教育概論】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション・福祉教育とは</p> <p>第 2 回 福祉教育の基盤となる考え方</p> <p>第 3 回 市民教育としての福祉教育</p> <p>第 4 回 ボランティア学習、サービスラーニング</p> <p>第 5 回 初等教育などにおける福祉教育</p> <p>第 6 回 教科としての福祉教育</p> <p>第 7 回 職業教育・総合科目としての福祉科教育</p> <p>【学習指導要領の検討】</p> <p>第 8 回 福祉科としての成立・位置づけ</p> <p>第 9 回 福祉科科目の構成</p> <p>第 10 回 社会福祉学(職業指導を含む。)</p> <p>第 11 回 高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉(1) 概論</p> <p>第 12 回 高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉(2) 指導上の留意と教材</p> <p>第 13 回 社会福祉援助技術(1) 概論</p> <p>第 14 回 社会福祉援助技術(2) 指導上の留意と教材</p> <p>第 15 回 介護理論および介護技術(1) 概論</p> <p>第 16 回 介護理論および介護技術(2) 指導上の留意と教材</p> <p>第 17 回 社会福祉総合実習(1) 目的・求められる能力・資質と課題、倫理</p> <p>第 18 回 社会福祉総合実習(2) 実習の流れと取組み、留意</p> <p>第 19 回 社会福祉総合実習(3) 教師としての配慮と準備</p> <p>第 20 回 人体構造及び日常生活に関する理解</p> <p>第 21 回 加齢および障害に関する理解</p> <p>第 22 回 福祉科教材論(情報機器及び教材の活用を含む)</p> <p>第 23 回 「体験」をどのように活かすか</p> <p>第 24 回 福祉科経営論</p> <p>第 25 回 福祉教育評価論</p> <p>【交流とフィールド体験(貧困・障害・児童・高齢等の生活問題)】</p> <p>第 26 回 事前学習</p> <p>第 27 回 障害者・高齢者との交流、講義(1) 障害者との交流</p> <p>第 28 回 障害者・高齢者との交流、講義(2) 高齢者との交流</p> <p>第 29 回 福祉施設の見学、フィールド体験</p> <p>第 30 回 まとめ</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(20%)と課題提出(80%)により総合的に判断する。		
テ キ ス ト	高等学校学習指導要領(特に第3章第8節福祉)(最新版)		

参 考 文 献	文部科学省『高等学校 学習指導要領解説:福祉編』海文堂出版(最新版) 田村真広・辻悟・原田正樹編(2002)『福祉科指導法入門』中央法規 硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠(2002)『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房
授業外における 学 習 方 法	
受講学生に望むこと	
備 考	春学期当初開催するオリエンテーション(別途掲示)参加が必要。詳細後日周知。

授 業 科 目 名	福祉科指導法 II (Teaching Method on Social Welfare II)		
科 目 番 号	9459001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	3 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	応談
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	大村 美保		
オ フ ィ ス ア ウ ー			
授 業 の 到 達 目 標	高等学校教育の福祉科における教育に関する基本的な知識を習得するとともに、教育現場での指導法の実践を学び、効果的な学習方法の立案・計画、実施、評価を行うことができる。		
授 業 の 概 要	福祉教育の基礎と構成、教材研究、授業見学、教案作成から模擬授業の実施等にいたる一連の課題への取り組みをとらして、教師として福祉にどのように関わるかを検討する。また高校生にとっての福祉科教育と実習のあり方などについて、論文等を通じて考察する。		
授 業 計 画	第1回 福祉科指導法の意義 第2回 福祉分野における現状と諸課題 第3回 福祉科における高校生の現状 第4回 教科「福祉」の教材研究(情報機器及び教材の活用を含む) 第5回 高等学校における福祉科教育の実践1(見学)基礎見学 第6回 高等学校における福祉科教育の実践2(見学)演習・実習科目 第7回 学習指導計画・学習指導案の作成の基礎 第8回 学習指導案の作成 第9回 模擬授業の実施 第10回 相互評価、まとめ 定期試験		
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(20%)と課題提出(80%)により総合的に判断する。		
テ キ ス ト	高等学校学習指導要領(特に第3章第8節福祉)(最新版)		
参 考 文 献	文部科学省『高等学校 学習指導要領解説:福祉編』海文堂出版(最新版) 田村真広・辻悟・原田正樹編(2002)『福祉科指導法入門』中央法規 硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠(2002)『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法			
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	「福祉科指導法 I」を受講済みあるいは受講している学生に限る。春学期当初開催するオリエンテーション(別途掲示)参加が必要。詳細後日周知。		